水戸線中編成ワンマンの訓練行路における「休憩時間が摂れない問題」に対し

労基署が水戸支社に指導！

～指導事項～

- ① **会社が組合との団体交渉等で「乗務員には休憩時間の概念がない」と回答しているが、この考え方は間違っている。職種で判断されるものではなく、その者の業務の性質上休憩を与えることができるか否かで判断するもの。その上で、休憩時間を与えることができない場合には労基法施行規則第32条の条文に該当しているか否かを判断し、いずれにも該当しなければ労基法違反となる。**
- ② **就業規則89条の休憩時間の明示の部分で、乗務員には「指定した行路」と明記されている。労働者が行路表を見て「ここが休憩時間だな」と分かるように明示しないとならない。ただ、明示方法には特段定めがないので、労働者が分かるようにするため、どの様に明示するかは労使の議論が必要。**

この指導の一方で、私たちが申告した「労働基準法第34条違反」に対しては、「違反したとは認められない」という労基署の判断となった。その判断の根拠は、労基法施行規則第32条2項の「その勤務中における停車時間、折返しによる待合せ時間その他の合計が法第34条第1項に規定する休憩時間に相当するときは、同条の規定にかかわらず、休憩時間を与えないことができる」という条文だけを見た時に、法第34条第1項に規定する休憩時間に相当する時間が確保されていたというものである。

しかしながら、労基署は次のようにも述べている！

- ① 「会社、組合側双方の主張を聞いたが、どちらの主張も否定はできず、労基署としては判断できない」
- ② 「(今回の臨時行路は) だろうじて積算時間が労基法で定めている休憩時間相当あったため、ギリギリ34条違反とは判断できなかった」

このことからすれば、そもそも「その者の業務の性質上休憩を与えることができるか否か」という争点については労基署で判断ができなかったということであり、今回の臨時行路の休憩時間の問題に対してはまだ結論が出ていないということである。よって、水戸地本は今回の労基署の判断を踏まえ、その是非を明確にする闘いを構築していく考えである！

また、水戸支社は「4分を超える停車時間」を休憩時間を積算する時間として労基署に説明しているが、この会社の考え方を明らかにできたことも成果である。今後の労使議論やそれぞれの行路設定の検証に活かしていく！

輸送サービス労組水戸地本は、「さらなる闘い」に決起します！